

○ 大波つらるゝしづのふじまろ

万葉是十六は造駒土師乃志婢麻呂と云垂仁  
紀三十三年秋八月皇后薨多とこしよりあまの  
道后と生うゝ陵墓は埋くると跡見右孫みふ  
りてお千玉土部つちべ一百人と召れやせて植めて人  
馬種うまねの物もの送ゆて秋あきりしし自今いま土物つちものとて  
かて陵墓らうぼは樹きの初はつあつてそとをうひうと  
ち物ちものと号なづて植う植うとい又立物たてものとをなせりささく  
天皇てんかうかの名な称なづと賞あづりしめて鍛地かんとこと賜たま即土部つちべ  
職しやくに於おく多おほうりて姓なづと改かへて土部つちべ臣おみとらふ也  
既すで兄あに名な称なづを土部つちべ連つら守もり始はじ祖いいしりて  
こはつらるゝとつらるゝ志婢しへ麻呂まろは万葉右の  
方かた村むら裏うら去さる大舍人おほしやにん土師つちのし名な称なづ水通みづとほ字な曰い志婢しへ麻呂まろと  
凡たゞくそと且かつ土師つちのしとハトといし土つちの古語ふるごのよなりを  
しし小こしとらるゝと畧りやくしてハトとい喘あはり

賀茂河迺流平

乃波人壽波可

留水膚毛於

保呂可尔見奈

濱臣





○ 大内つとむ ことしつとむ  
 万葉卷十六日 造敷土師乃志辨麻呂と志仁  
 仁三十三年秋八月皇后薨すこれより以後  
 皇位とすう 隆基と理とと所見相承ふ  
 ことか干土師一人と名れりて随いて人  
 馬種りの物種を送てけりれ 自今土師とて  
 かく種葉樹の初めりてててててててて  
 ち物とてててててててててててててて  
 天皇の御はと愛しててててててててて  
 職の初めりててててててててててて  
 改名もれりててててててててててて  
 こいつらとててててててててててて  
 方々去りて大舍人土師名稱水通字曰志辨麻呂  
 又とてててててててててててててて  
 小とててててててててててててて

賀茂河延流乎  
 乃汲人等汲可  
 三留水屑其於  
 保呂可尔見奈  
 優且





中村種重郎節多踏り多しと依り年  
 信長氏の邸あり  
 物多 又茂貞閣 万葉考 未終の  
 一巻に十 清水源  
 此の有りて 教小多し  
 其の長有り多  
 此の有り 此の有り

今物



子3  
 3838  
 1

